

石仏について

さてこの石仏はなんという仏さんでしょうか？

髪の毛があるのでお地藏さんではありません。手指の姿はどうでしょう、阿弥陀さんではありません。

残るは弥勒さんかお釈迦さんのどちらかです。

手のひらの向きからこれはお釈迦様、仏教をはじめられた方ということがわかります。

橿原市史には浄楽寺の石仏について大永4年の銘があると書いていますが、実際に調査したところ（拓本：藤澤典彦）、右側に「大永」ではなく「本誉」の名（石仏を供養された願い主）があり、年号はありませんでした。

また左に「常楽寺」とありました。この寺は中村の北西の久保川原（大字）にあった法相宗の寺の名で、この石仏はその常楽寺のご本尊であったと思われます。

では年号は？・・・64頁を見てください。厚肉彫りで服の襷【ひだ】が等間隔で、台座の蓮弁がとがっています（普通蓮弁は丸い）。それらの特徴からこの石仏の年代は、偶然にも大永4年という年号に合致する室町後期16世紀の後半ではと思います。

石材は山添村あたりでとれる奈良石。鎌倉時代から、石塔、五輪塔、石仏等に使用されることが多い高級石材です（奈良石は日本三大名石のひとつ）。中に珊瑚石（赤いアンバー）が見えます。

手法は、厚肉彫り、つまり耳から前が掘られています。お姿はほぼ人体に近いプロポーションで、顔は残念ながらありません。多分顔をなでると「男前になる？」とかのまじないの意味でみんながなでたことで顔がなくなっているようで、こういったことはよくあります。何らかの地域信仰があったのではないでしょう。

イケメン石仏？

64頁上段に図15で、東大寺の近くの「五劫院地藏石仏」をご覧ください。浄楽寺の石仏とよく似ています。雰囲気や石材も同じで、浄楽寺の石仏と同じ石工か同じ流派による作だと思います。体もほっそりしていて、顔はイケメンです。というわけでこちらの石仏のお顔は五劫院地藏石仏と似て男前の石仏だったのでと思います。

室町時代のお釈迦さんの石仏は他になく、奈良の宝物と言え、奈良県の指定文化財、もしくは国の重要文化財にしたもので、今後所見を書きたいと思います。

まとめますと、この石仏は浄楽寺の前身の寺、常楽寺のご本尊で、室町時代の終わりの16世紀前半の石仏。今はお顔がありませんが、イケメンの石仏だったといえるでしょう。

極楽といえば阿弥陀さん、いっぽうお釈迦さんがおられる霊鷲山【りょうじゅせん】は一生修行するところです。あらゆる仏さんの中で1番えらいのがお釈迦さんですので、ここに志を供えてお参りしていただいたら、極楽にいかせてもらえるかもしれません。石籠（セキガン＝石仏を覆う岩室）再建も目標にして、今後も大切に、お祀りください。

（有限会社ワーク 山川均）

